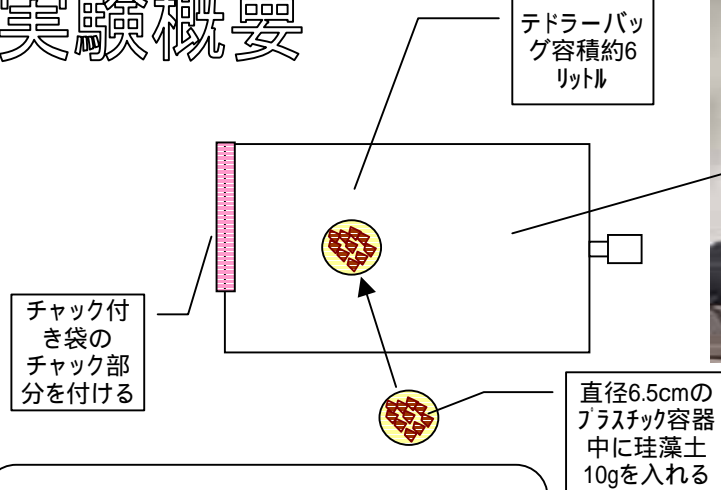
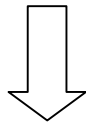


実験概要



水酸化アンモニウム溶液 (1+20) をバブリングし、その発生するガスをテドラーバッグに入れて任意の濃度のアンモニアガスを作る
一定時間毎に検知管で濃度を測定する。



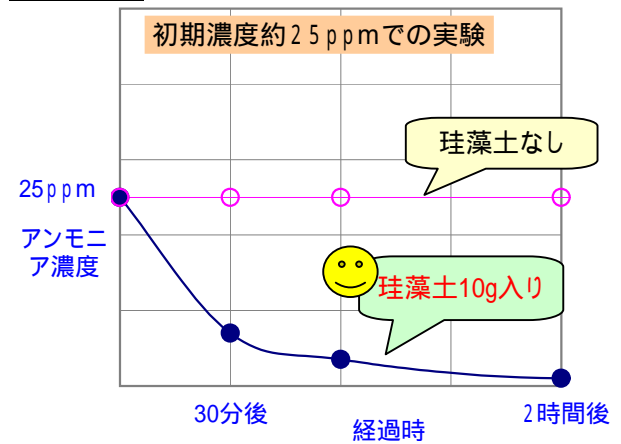
H22.4.27 ~ 4.28

経過時間 (hr)	その1	その2	その3
	濃度(ppm)	濃度(ppm)	濃度(ppm)
0.0	25	104	184
0.5	7.0	60	114
1.0	3.5	13	54
2.0	1.0	2.5	10
24	<0.5	<0.5	<0.5

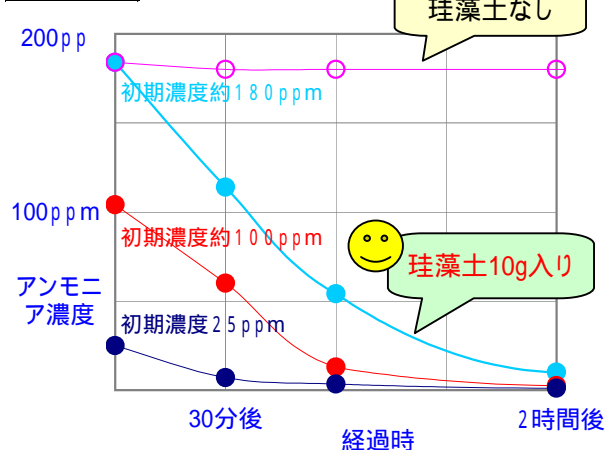
珪藻土なしの場合の濃度推移 (60ppmで変化なしを確認済み)

0.0	25	104	184
0.5	25	100	180
1.0	25	100	180
2.0	25	100	180
24	25	100	180

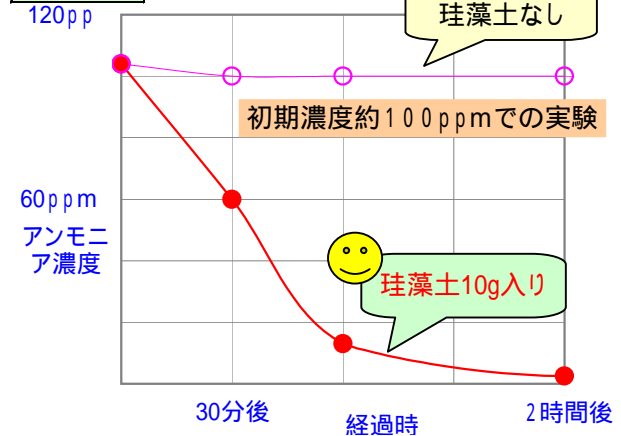
その1



その3

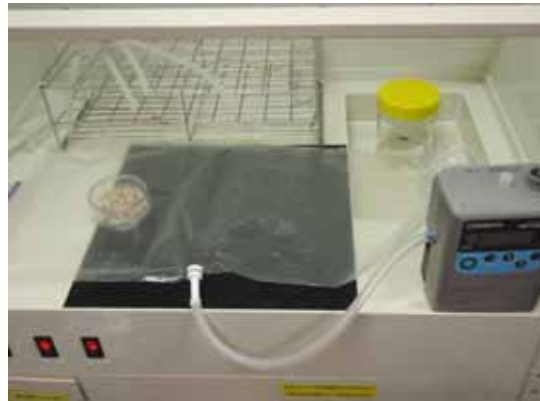


その2

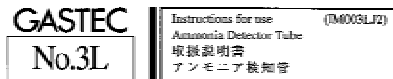




実験に用いた検知管



ポンプであらかじめ空気を入れておき、それからアンモニアガスを送り混合する



安全にお使いいただくために
使用前に、本書及び検知管式気体測定器の取扱説明書をお読み下さい。

- △注意**
- 検知管の両端を折り返すとき、目から遠ざけて下さい。
 - 検知管の切り口、かけら、破損したときの光で眼に障害を及ぼさないで下さい。
- △注記**
- 性能維持、信頼性確保のために
 - ・ガスタックの製法検察器(100mm)を使って測定して下さい。
 - ・温度(検知管) 0~40℃の範囲で使用して下さい。
 - ・相対湿度 90~99%の範囲で使用して下さい。
 - ・共存ガスの影響を受ける場合があります。干渉ガスの項を参照して下さい。
 - ・検知管の保存条件及び有効期限は箱に表示されています。

適用範囲
空気中及び工業ガス中のアンモニアの測定に使用して下さい。

注：標(性能向上のために仕様や外観などは変更することがあります。)

測定範囲	0.5-10ppm	1-30ppm	30-70ppm
吸引回数(n)	2回	1回(2分)	1/2回
吸引補正係数	1/2	1	2.6
吸引時間	約2分	約1分	約3秒
検知限度	0.5ppm(2回吸引)	検知→警告	検知→警告
反応原理	アンモニアは検知管と中和反応して赤茶色は黄色を呈する。		

温度の影響
温度：温度の影響を補正するため、読み値に以下の補正係数を掛けて下さい。

温度(℃)	0	5	10	15	20	25	30	35	40
温度補正係数	1.25	1.25	1.15	1.07	1.0	0.95	0.9	0.85	0.83

湿度：影響ありません。
気圧：1気圧(1013hPa)に対し±10%を越える場合、次式により補正して下さい。
読み値(ppm) × [1013(hPa) ÷ 測定点の気圧(hPa)]



安全にお使いいただくために
使用前に、本書及び検知管式気体測定器の取扱説明書をお読み下さい。

- △注意**
- 検知管の両端を折り返すとき、目から遠ざけて下さい。
 - 検知管の切り口、かけら、破損したときの光で眼に障害を及ぼさないで下さい。
- △注記**
- 性能維持、信頼性確保のために
 - ・ガスタックの製法検察器(100mm)を使って測定して下さい。
 - ・温度(検知管) 0~40℃の範囲で使用して下さい。
 - ・相対湿度 90~99%の範囲で使用して下さい。30%より低い相対湿度では正確な測定を望みません。
 - ・共存ガスの影響を受ける場合があります。干渉ガスの項を参照して下さい。
 - ・検知管の保存条件及び有効期限は箱に表示されています。

適用範囲
空気中及び工業ガス中のアンモニアの測定に使用して下さい。

注：標(性能向上のために仕様や外観などは変更することがあります。)

測定範囲	2.5-5ppm	5-100ppm	100-200ppm
吸引回数(n)	2回	1回(2分)	1/2回
吸引補正係数	1/2	1	2.6
吸引時間	約1分	約30秒	約20秒
検知限度	0.5ppm(2回吸引)	検知→警告	検知→警告
反応原理	アンモニアは検知管と中和反応して赤茶色は黄色を呈する。		

温度の影響
温度：温度の影響を補正するため、読み値に以下の補正係数を掛けて下さい。

温度(℃)	0	5	10	15	20	25	30	35	40
温度補正係数	1.2	1.15	1.1	1.05	1.0	0.95	0.9	0.85	0.8

湿度：影響ありません。
気圧：1気圧(1013hPa)に対し±10%を越える場合、次式により補正して下さい。
読み値(ppm) × [1013(hPa) ÷ 測定点の気圧(hPa)]



においモニターで測定した値は・・・19
このときの検知管でのアンモニア濃度は約75 ppm

日本産業衛生学界 許容濃度は・・・
25 ppmとなっています

悪臭防止法に係る規制基準では
敷地境界で1 ppm(市街化区域等)